

様式第3号

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第14回 キセラ川西エコまち協議会	
事務局 (担当課)		キセラ川西整備部 キセラ川西推進室 地区整備課	
開催日時		平成29年3月22日(水) 13時00分～14時30分	
開催場所		川西市役所 4階庁議室	
出席者	委員	加藤、山中、武田、牧田、安田、中根、松塚、下司、井上(武)、山本、蟹井、畑中、井上(博)、金淵、奥田、新田、日下、津賀(敬称略)	
	その他	(オブザーバー) 松下、坂野(敬称略)	
	事務局	酒本、北野、藤田、山角、池永(地区整備課) 絹原、中川(調査機関)	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1 開会あいさつ 2 前回からの動き ・工事の進捗状況 ・建築行為等の手続条例運用状況 ・エコまちラベリング表示デザイン・建築賞サインについて ・みどり部会について ・交通部会について 3 議事 ①キセラ川西エコまち計画におけるモニタリングについて ①-1 建築分野におけるエネルギーモニタリングについて ①-2 みどり分野における緑化モニタリングについて ②エコまち運用基準について 4 今後の予定	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

<開会>

1. 開会あいさつ

(キセラ川西整備部 部長あいさつ)

- ・ こんにちは。このエコまち協議会は、エコまち法に基づく低炭素まちづくり計画が策定されてから、来年がちょうど 5 年の折り返し地点にある。小さいことがどこまでできるかと思っている。工事をどんどん進めていくルーティーン、補償交渉が 100%契約にいたる状況が見えてきている。工事の発注も 95%、来年度 1ha くらいがある。平成 29 年度中にすべての宅地で整地が終わり、引き継が行われるという状況である。公共施設も公園の工事が順調に進んでおり、7月8日土曜日にはオープニングセレモニーをする運びとなり、9月にはすべての面積で供用開始を迎える。
- ・ 交通部会、みどり部会を抱えており、交通部会は公共交通の利用促進を大きな目的にしつつ、シャトルバスとか自転車の社会実験など検討してきたが、最終的には区域の中の大規模な駐車場を相互利用するということに注力する方向である。みどり部会は新しくできる公園を広く市民の方に使っていただきたいという思いである。公園の管理の歴史を振り返ると、あれはだめ、これはだめという歴史を作ってしまった背景があり、シビックプライドに還元していきたいと思っており、許可をして出来るだけ色々な取組をチャレンジ的にやっていただこうと思っている。そのためのガイドラインを、みどり部会の武田先生を中心に、キセラ川西整備部と公園緑地課が中心となって、市民団体や庁内の関係部署で練り上げて来た。土地利用は、100弱くらいを民間に引き渡すが、その半分弱が引き渡し済で、そのうちのさらに半分、すなわち全体の4分の1(35件)が建築行為がなされている。その全てに対して条例に基づく事前協議を行っている。土地利用は事前協議に基づく低炭素の土地利用を誘導していくという状況があるので、それに対するモニタリングも重要になってくる。300㎡未満の建築物はまだ省エネ法の届出対象にされていないが、我々の事業についてはすべての建築物を低炭素化に誘導していく。小さな取組だが、低炭素化を実現するためには、これしか方法がないと思っている。
- ・ 工事も来年度最終年度を迎えるので滞りなく終えていきたい。来年度は下半期に5年目に入ってくるのと、モニタリングがメインになってくる。これまでやったことのない取り組みが続いていくのでみなさんの知恵を結集して、目標を達成するべく取り組んでいきたいと思う。

2. 前回からの動き

○事務局

・資料説明

資料 1-1 工区割図

資料 1-2 建築行為等の手続条例運用状況

資料 1-3 エコまちラベリング・建築賞サインについて

資料 1-4 キセラ川西せせらぎ公園利活用ガイドライン【試行版】

資料 1-5 平成 28 年度交通部会ダイジェスト版

○会長

- ・ ラベリングの来年度対象になる建物で、物件番号 27-11 の事例について、協力が得られなかった

事例かと思うがどんな建物で、1のレベルをどう見るのかということも考えていく必要があるかもしれない。面積は大きいのか。

○事務局

- ・用途は産廃事業者の積み替えの事務所である。建物は、簡易な建物であり、緑に対する協力等も実現が難しかった。
- ・面積はあまり大きくはない。

○委員

- ・資料 1-1 に記載されている工事スケジュールについて、複合施設の方は、平成 29 年 4 月に着工し、平成 30 年 9 月に供用開始の予定である。資料の修正をお願いしたい。

4. 議事

①キセラ川西エコまち計画におけるモニタリングについて

①-1 建築分野におけるエネルギーモニタリングについて

○事務局

- ・資料説明
資料 2-1～3 モニタリングについて

○会長

- ・このまま公表するということが良いでしょうか。
- ・計画最終年度の削減量はイメージとして図はあるが、目標値はあるのか。

○事務局

- ・エコまち計画の中では、10%削減というものがあったかと思う。

○事務局

- ・指定建築物については 10%以上の削減、一般の建築物については省エネ基準以下に努めるという記載をしている。

○会長

- ・その設定は分かるが、一般の方が分かりやすいように、どれくらいがんばろうという話があると思う。白い枠だけはわからないのではないかと。

○副会長

- ・おそらく、一般の人が見て分かりにくいのは空地だと思う。空地でなぜエネルギー消費があるのだろうというところが疑問に思う。下に書いてある算出方法だけでは分からない。空地にどんなものが建つという前提があつてのことだと思うので、もう少し解説を加筆するなど加えていただければと思う。
- ・グラフは目分量だが、グラフの図に記載があつてもよいのではないかと。

○会長

- ・国の政策でも数字を示し、引っ張っていくというのが最近の流れでもある。あまり隠す必要がなければ、10%以上削減を目指しているという記載をしてもよいのではないかと思う。

①-2 みどり分野における緑化モニタリングについて

○事務局

- ・資料説明
資料3 みどり分野における緑化モニタリングについて

○会長

- ・ただいまの報告についてご意見、ご質問ありますでしょうか。

○委員

- ・今回、初めて参加させていただいたので気付いた点について4点お話したい。みどりのモニタリングについて、高木の本数もひとつの指標だが、土地利用として捉えることが大事である。土地の被覆がみどりであるかないかも重要である。緑化計画書等の資料もあると思うので、土地被覆状態を捉えて、地区の緑被地率割合も示すことができると思うし、エコロジカルが担保されているかの指標にもなる。
- ・みどりの育成の視点も入れてはどうか。高木でも3mでも10mでも吸収量が違うので、経年変化の視点を入れてはどうか。街路樹でも伐採して、廃棄物処理されて燃やされていけば排出側に回る。神戸市では最近では剪定しないという方針になっている。
- ・各家庭の落ち葉などを公園に集める仕組みなど入れると、エコロジカルなまちづくりのひとつの視点ではないかと思う。バイオマスの観点から、生き物をみどりとして扱って、人間を介した生態系をつくっていくということもあっても良いのではないか。
- ・もうひとつは質の話である。課題でもあげられているが、緑視率はどこから写真を撮るのかというのが重要である。せせらぎ緑道のような線的な空間であれば流軸方向に従って写真を撮るのはひとつの方法だと思う。公園や宅地の緑化がある場合、間口緑視率でみるか、どういう視点場から見える風景が大事なのかも考える必要がある。
- ・緑といっても、高木なのか中木なのか草花なのかによっても違うし、遠景か近景かによっても評価は大きく異なってくる。難しいかもしれないが、どう育ち、豊かな景観がつけられているのかという点がモニタリング出来ると良い
- ・エコを大きな視点として捉えると、文化的な活動や社会的な活動や経済的な活動が循環するか、どのような人たちがどう使いこなす、文化を形成していくのが重要だと思う。
- ・公園やまちの使われ方についてもモニタリングして、まちがどう成熟しフィードバックの仕組みをつくることも重要であり、みどり部会でもガイドラインをそのように活用していきたいと思う。

○事務局

- ・ご意見いただいた点を事務局と相談して詰めていきたい。

○会長

- ・目標としてあげているのはモニタリングをなんのためにするのかという点がある。裸地と芝生では吸収量が違うのか、精査をする必要があるというのは事務的には大変だろうが、事務局にも精査いただければと思う。そんなに違いが出るものなのか、悪戯に精査しても大変なので、作業量と誤差の範囲を見極めて進めていく必要がある。
- ・CO₂削減では、全国的に常用されているやり方がある。他市と比較されるので、余り細かくやっても他市と比較にならないと言われると困るし、アバウトすぎても困るし、精査をすることと、その必要性を整理してみてください。

○事務局

- ・人間のアクティビティがどのように展開されているのかという視点は弱かったと思っている。国の方でも2014年でしたか、弘前の方で社会実験を行ったり、そういった動きが広まっていくだろうと思っている。
- ・大事だと改めて感じたが、どのような活動が精力的に行われるように見えれば、いい評価だったり、どういう活動が顕著に見られれば残念な評価になるのか、その辺のイメージを教えてください。

○委員

- ・1万人が1回くるイベントと、100人が100回くるイベントと、どっちがいいですかという話がある。私は年に1回しか使われない公園よりは、年に100回使われる公園の方が価値があると思うし、数はすくなくても毎日使われている公園の方が地域に根差した価値があると思う。
- ・ガイドラインに基づいて行われるイベントは簡単にモニタリングできる。
- ・公園での日常の活動についてもモニタリング出来ると、それは価値のあるデータだと思うし、どういう人がどこからきて、どういう活動をしていったかが見えると面白いのではないかと思う。その活動に対して、オープンカフェや椅子があることがよいのかなども検討できるかもしれない。

○会長

- ・広さが持っている役割がある。1haくらいであれば、私だけがいて誰もいないというのが最高の公園ということもある。アクティビティを増やそうとした時は、賑わいづくりに路線がいき、緑うっそうだと防犯的に嫌だという批判もあり、緑環境はその議論が行き来している。正解のない中で理想を決めるのは住民の意見を聞くしかない。
- ・いろんな意見の中で60点くらいのところを狙っていく。専門家に聞いても、住民に聞いても100通りの理想がある。

○委員

- ・公園の試行ガイドラインがあるが、低炭素まちづくりの一環としてあるので、フリーマーケットなどする場合、地域の低炭素化に役立っている、地元を愛するということは都市機能を作っていく、だから低炭素など、イベントに主旨を書いていただいて、許可する時に実績を積んでいくように始めたら、イベントをすることで低炭素に貢献しているということを、イベントをする側

も許可する側も意識づけしていったらどうか。

② エコまち運用基準について

○事務局

- ・資料説明

資料4 エコまち運用基準について

○会長

- ・CASBEEの方は、ハードルを上げているのか、それとも下げているのか。

○事務局

- ・上がる方向である。それに連動する形で、エコまち運用基準も求める水準が上がる可能性があるということである。

5. 今後の予定

○事務局

- ・「キセラ川西せせらぎ公園」のオープニングセレモニーを、7月8日土曜日の午前中に予定している。詳細が決定次第、皆さんにご案内する。
- ・モニタリングの公表案については、山中副会長にご相談させていただき、加藤会長に確認いただき完成させていきたい。
- ・次回は平成29年8月頃を予定している。委員の皆様にはご協力お願い出来ればと思う。

以上